



土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 542
発行責任者	所長 橋本 勇治
発行日	平成30年11月9日
題字	山田 恭正 教育長

「ザ・スタンダード」

土岐市教育研究所長 橋本 勇治

東濃地区には、教育長会・各市教育委員会・東濃教育事務所が連携した、他に類をみない希少な組織として「東濃地区教育推進協議会」(略称:

「東教推」)が存在します。長年にわたり各種事業を脈々と続けてきましたが、その一つに去る10月23日に多治見市立精華小学校で実施された「研究発表・実践交流会」があります。

精華小学校は各市に1校ずつ設置された「東教推研修校」(ちなみに土岐市は泉中学校が研修校)です。研修・研鑽を積む場として、土岐市からも複数名の教員を派遣しています。その方々が、研究推進のリーダーとして、また、授業者として活躍していらっしゃいました。派遣元の教育委員会としてはうれしい限りです。いずれ土岐市に帰還される日を心待ちにしています。

当日、「実践交流会」もありました。土岐市を代表して2名の若手が実践発表者となりました。そのうちの一人、「外国語活動部会」には土岐津小学校の研究主任が登場しました。

「拠点校」や「推進校」と名の付く学校からすれば「当たり前」なこと(東濃の外国語教育をリードしていらっしゃる某校長先生は、それを「ザ・スタンダード」と呼ばれました)を、土岐津小学校では地道にコツコツと、全職員を巻き込んで実践していました。「僕の実践ではなく、土岐津小学校全職員の実践です。」と臆せず言い切る彼の、謙虚に見えて実は自信に満ちた姿勢こそが、この土岐津小学校の実践の確かさと手応えを物語っています。

彼の実践発表は、児童の主体的なコミュニケーション活動を具現するためには、全ての教師の主体的な学びが必要であること、そして、「当たり前」なことを「当たり前」にきちんと行って、どの教師ももれなく実践できるようにすること、それらを具現することが土岐市のパイロット校としての役割を果たすことにつながるというものでした。

さらに、こんな頼もしい実践の報告もありました。

①「校内研究体制の整備」を重要な土台とし、優先課題とすることで、先生方一人一人が外国語教育を「他人事」ではなく「自分事」としてとらえている。(例えば、毎週の打合せ冒頭に行われる「3分英語研修」が今でも続いている。全研のオリエンテーションでは全職員が参加した模擬授業を行っている。全職員が「自分事」として主体的に取り組んでいる。)

②単元がどのように構成されているか、各単位時間のもつ役割について共通理解を図っている。その上で、どのように授業をデザイン(児童が主体的に慣れ親しむことができる活動の工夫)するかを大切に、実践を重ねている。

③外国語活動の1時間の流れ(パターン)を可視化し、教師が見通しをもって指導過程を工夫し、児童が主体的に学ぶ姿を具現している。

「実践交流会」に同席していた前出の某校長先生が、改めて「ザ・スタンダード」の価値を私に語っていただきました。褒められたような、何となく誇らしい気持ちになったと同時に、パイロット校としての今後の活躍に、大いに期待を膨らませて会場を後にしました。



「笑顔で！ 職場体験」

撮影者 駄知中学校

新海 正和 先生

主幹教諭の職務と取組

泉小学校 土本 高夫

1 はじめに

岐阜県型の主幹教諭の役割は、「生徒指導や地域連携など重要課題に対応する。複数校の課題に取り組むことで各校の教諭が児童生徒に向き合う時間を確保し負担軽減を図る」です。具体的には

- ・校内組織や諸活動の効率化や活性化
- ・関係諸機関との連携
- ・生徒指導事案対応のコーディネート
- ・若手教職員やミドルリーダーの育成

以上のことを心がけながら取り組んでいます。

2 主幹教諭としての取組

1 週間の勤務（泉校区）

月曜日	泉中学校（兼務校）・泉小学校（本務校）
火曜日	泉中学校（兼務校）・泉小学校（本務校）
水曜日	泉西小学校（兼務校）
木曜日	泉中学校（兼務校）・泉小学校（本務校）
金曜日	泉中学校（兼務校）・泉小学校（本務校）

基本の勤務はありますが、各校の実情等によって、勤務内容も含めて柔軟に対応しています。

（1）生徒指導にかかわること

①生徒指導事案対応の支援

- ・校内あるいは複数校が関係する生徒指導事案について、情報整理や対応の支援をする。

②教育相談及び不登校対応のコーディネート

- ・関係する会議に参加して対応を協議する。
- ・各校の教育相談担当と綿密に連携する。
- ・本人や保護者との懇談に同席して支援する。

③外部機関との連携体制の構築

- ・外部機関（東濃子ども相談センター、市教育委員会、市子育て支援課、警察署、浅野教室、医療機関、東濃特別支援学校など）との連携を図る。

以上のほかに、児童生徒理解や関係づくりを目的として授業などの学習支援も行っています。

（2）小中連携にかかわること

く 小中の円滑な接続 〉

- ・生徒指導主事、スクール相談員、特別支援教育コーディネーターと小学校を訪問する。
- ・児童生徒の情報を引き継ぐため、小学校と中学校の関係職員の連絡会を早期に設定する。

- ・学習や生活にかかわる指導事項を小中で共有し、進学に向けた指導や準備をすすめる。

生徒指導諸問題の未然防止として、教職員の学級経営や生徒指導などの相談にもなっています。

3 教育相談及び不登校についての取組

土岐市の教育相談及び不登校対策についても教育委員会、西陵中学校の河合哲仁主幹教諭と連携して取り組んでいます。その取組の中で感じた、大切にしたい基本的なことを紹介します。

キーワード 「素早く」「組織で」「誠実に」

（1）「素早く」

- ・欠席3日以内は児童生徒の状況を確実に共有し、欠席4日以降はケースに応じて早期に教育相談委員会などを開いて対応を協議する。
- ・情報や対応の方針について、関係教職員への“報告・連絡・相談”を素早く行う。

（2）「組織で」

- ・関係教職員それぞれの役割を明確にし、情報を共有しながら取り組む。
- ・外部機関など関係諸機関の協力を積極的に得ながら連携して取り組む。

（3）「誠実に」

- ・本人や保護者の立場に立ち、共感的な姿勢できめ細かな対応をする。（先入観をもちたい対応）
- ・支援による変容にとらわれ過ぎることなく、継続して支援をする。

さらには「確実に」です。特に過年度の情報の確実な引き継ぎです。そのために、文科省が推奨するように児童生徒理解・教育相談シートを個々に作成し、過年度の支援情報を校内・小中で確実に共有して継続的な支援を図ることで。

4 おわりに

校区各校の先生方のひたむきで一生懸命な姿を日々目の当たりにする中、自分は主幹教諭として2年目となりますが、県が求める“負担軽減を図る”取組が十分にできているとは言えません。

泉校区でも生徒指導上の課題など教育的課題が山積しています。その課題に対し、主幹教諭として何ができるかをこれからも自問自答し、知恵を絞りながら先生方と一緒に精一杯取り組み、主幹教諭として求められる職務を果たしていきたいと思えます。

第2回学力向上推進委員会 活動報告

駄知小学校 伊藤 康代

期 日：平成30年8月24日（金）

今年度の学力向上の土岐市の指導改善の重点は、以下の通りである。

<指導改善のポイント>

考えの深まりや広がりを実感できる
振り返りの場 ～終末からの授業改善～

- 1 考えの深まりや広がりを実感する
振り返りの場の工夫
- 2 思考の過程, 自己の変容を振り返ることができる
ノート整理の工夫
- 3 自分の考えを相手に伝える, 説明する
話し合い活動の工夫

検証の場として、以下の方法を設けた。

平成30年度「全国学力・学習状況調査」
児童生徒質問紙

- ①「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。」
- ②「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。」
- ③「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」

上記の項目に対して「当てはまる」の割合が①40%、②30%、③30%を超えたかどうか。

第2回学力向上推進委員会では、全国学力・学習状況調査の分析を行い、今後の重点を考えた。

1 各校の結果分析と指導プランの検証

(1) 【学力調査】の結果から

- まとめの記述に力を入れて指導してきた結果、短答式、記述式の無回答率が低くなった。
- 話し合い活動に力を入れて指導してきた結果、無回答率が低くなった。
- 文章を読み取る力や、条件に沿って書く力が弱い。
- 算数では、ノートに自分の考えを文章に書きあらず指導してきたが、思考の過程を文章に表す力に弱さがみられる。

- 目的や意図に応じ、必要な情報を取り出し、答える力に弱さがみられる。
- 「伝える」「説明する」力に弱さがある。

(2) 【学習状況】(質問紙)の結果から

<主体性に関すること>検証①

- 与えられた課題には、まじめに取り組むが、「主体的な取組」に弱さがある。
- 平均正答率が低い児童は、自己肯定感も低く主体的に取り組む姿も弱い。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。」の「当てはまる」の割合が低く、主体的に学ぶ姿に弱さがある。
- 「自分で計画を立てて勉強している。」に対する「当てはまる」の割合が低くなった。

<話し合う活動に関すること>検証②③

- 話し合う活動はよく行われ、自分の意見や考えを表現する場は設けられていたが、話す工夫や考えの深まりには課題が残る。
- 質問に対して「当てはまる」と答えた生徒の割合が昨年度と比べて増えたが、目標には届かなかった。
- 自分の考えを話し合う活動を通して深めたいという思いはあるが、実感や学力にはつながっていない。

2 土岐市における全国学力・学習状況調査の分析

(1) 【学力調査】の結果分析

- 問題の正答率では小学校、中学校ともに、岐阜県の平均正答率をわずかに下回っている。
- 問題の解答形式では、小学校国語の短答式、記述式の正答率が低く、中学校数Aの記述式の正答率が低い。
- 短答式、記述式の無回答率が高い。
- 問題の後半になるほど、無回答率が高くなる。

わずかな正答率の差をなくすためには、小学校は15%程度、中学校は30%程度のベースアップが必要である。これは、小学校では1割～2割の児童があと1問正答すればよく、中学校ではあと3割の生徒があと1問正答すればよいことを意味する。

どのような問題の正答率を上げるのかと考えると、短答式、記述式の問題だと考えられる。

なぜなら、分析結果から、土岐市の児童生徒は、短答式、記述式の問題の正答率が低く、無回答率が高いということがわかるからである。

正答率が低い理由として、答え方がわからなかったり、自分では正しく答えているつもりでも言葉足らずであったり、題意に対して適切な答え方できなかったりすることが挙げられる。

また、無回答率が高い理由として、記述式の問題に対する抵抗があることや、特に小学校では時間配分ができていないことが考えられる。

(2) 【学習状況】(質問紙)の分析

検証の場として設けられている質問についての結果は、次のようになる。

- ① 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。」では、「当てはまる」の割合が、目標値40%に対して、小学校、中学校ともに大きく下回る結果となった。
- ② 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。」では、「当てはまる」の割合が、目標値30%に対して、小学校、中学校ともに大きく下回る結果となった。
- ③ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」では、「当てはまる」の割合が、目標値30%に対して、小学校、中学校ともに目標値に近づいている結果となった。

以上のことを踏まえ、今後の改善点と重点を交流した。

3 今後の重点と改善点

子どもたちが、自分で考え、
自分から取り組む授業

- 1 教える授業から、
子どもたちが考える授業へ
- 2 子どもたちが、自ら学ぶ授業
- 3 子どもたちで、学び合う授業

<子どもたちが考える、子どもたちが学び合う授業にするための改善>

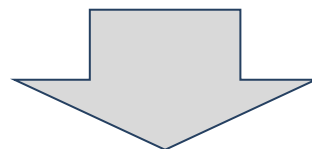
- 振り返り活動において、ポイントを明確にしたまとめを書かせる。
- アウトプットの経験の乏しさから、記述式の正答率が低いことが考えられるため、振り返り活動と話し合う活動を授業の中の一活動として、定着させる。
- 終末の振り返りの場において、学習内容が児童のものになる工夫

<子どもたちが自ら学ぶための改善>

- 「何を学ぶのか」明確な課題と見通しをもち、主体的に取り組める授業づくり
- 何を話し合うのかを明確にしたり、話し合いの足場をもったりした上での話し合い活動を設定する。
- 主体的に取り組む児童生徒にしていくため、家庭学習の充実、予習の取り組みを高める。
- 家庭学習の計画的に行えるようにするための指導を考える。

4 学習内容の定着のために

- ・ 年度末に各学年の学習を振り返り、定着状況の確認をする
- ・ 未定着な内容を学び直す
- ・ 学習内容を活用し、問題解決をする



小学校5年生・中学校2年生は、
年度末に今年度の全国学力調査を行う

「私の教育実践」

基本的な生活習慣から集団生活、そして遊びへ

下石小学校附属幼稚園 教諭 清水 恵里

本園では「あいさつ・せいとん・せいれつ・きく、はなす」を4つの約束として位置づけ、毎週の集会や各クラスで発達に適した指導を行うことで、「生活する力・関わる力・学びの力の基礎」を育んでいます。

4つの約束活動を通して、友達や教師に自分から挨拶をする姿、友達を意識して話をしたり聞いたりする姿が育ってきています。この力を遊びの場面で生かして、自ら考えて行動したり、個性を發揮したりできる姿を目指しています。

運動会での取り組みの中で、リレーでどうしても1位がとれないチームから「1位やなくても、もういい。1番だけがすごいんじゃないもん。」「そうだ、がんばってるからもうすごいんや。」と言う

子や、「いやだ！リレーは1番がとりたい！」と言う子が出てきました。子どもなりの思いを言葉で伝えられた事を認め、更に話し合いました。次第に、本当は1番がいい！という気持ちが高まり「まだまだ本気がだせる。」「並び方を変えたらいい。」「練習しよう。」と、良いアイデアが出てきました。子ども達のやってみようという気持ちが大きくなっていくにつれて、考えも広がっていくと改めて感じました。

考えや思いを友達と共有したり、工夫して発展させたりする力をつけて夢中になって遊んでほしいと願っています。今後も子どもの発見や思いつきを拾い、より個性を發揮していけるように援助していきたいと思います。

「私の教育実践」

願いを伝えるために

泉小学校 教諭 伊藤 由衣

「自分の願いを子どもに伝えるって難しい」

私が講師時代に悩んだことです。そんな時に出会った6年担任の先生が、絵本を使って学級開きをしてみえました。「かぶと三十郎 きみのために生きるの巻」(宮西達也作)。進級したばかりで緊張していた児童の顔が時間と共にほぐれ、笑顔になり、楽しそうに先生の話聞き入っていました。絵本を通じて、担任としての願いを伝える方法に、私は感動しました。話下手な私でも、本の力を借りることで、思いが伝えられるのではないかと思います。

それからは、色々な場面で絵本を読みました。小学校低学年では、運動会前にみんなで力を合わせて頑張る楽しさを知ってほしいと、「11ぴきのねこ」(馬場のぼる作)を読みました。中学年では、

陰徳を積む児童の姿を紹介し、価値付けを行う際に「花さき山」(斎藤隆介作)を読みました。高学年では、「ヤクーバとライオン I 勇気」(柳田邦夫作)を読み、本当の勇気とは何かを考えました。中学校の国語の授業では、古典が苦手だと言う生徒に少しでも興味をもってほしくて、「たかこ」(清水真裕文)を授業の導入に読みました。

私の思いを受け取ってくれる笑顔が嬉しくて読み聞かせを続けているうちに、私の願う姿を子どもたちが授業や行事の中で見せてくれることに気付きました。きっと子どもたちが自然と話に集中し、学級全体が一瞬にして、同じイメージをもつことができたからかもしれません。これからも、教師の願いが伝わり、児童が楽しみながら学べるような絵本を読み聞かせていきたいです。

「心にひびく言葉」

先生、私たちは素敵な大人がどんな大人なのかをちゃんと知っているよ

濃南中学校 教頭 加藤 美香

先日行われた保護司と語る会。保護司の方から「どういう大人になりたいですか？」と質問を受けた生徒は、次のように答えた。

「中学校に入学した春、自転車登校中に自転車が壊れてしまい困っていたら、それを見ていた地域の方が、軽トラックに自転車を積んで、私を学校まで送っていただきました。それだけでなく、私を降ろした後、壊れた自転車を自転車屋さんへ運んでくださいました。わたしもこの人のように困っている人を助けられる大人になりたいです。」
「僕の地区は、祭りをするにも人数が少なく、少し寂しい気もしますが、祭りをめっちゃ盛り上げる一人の大人がいます。その人のおかげで、毎年人数に負けない楽しい祭りになっています。僕も、どんな状況もプラスに変えて、周りの人を楽しませ

ることができる人になりたいです。」「この学校には、楽しい先生、明るい先生がいるから、生徒の人数は少なくとも毎日学校にくるのが本当に楽しいです。私も先生のように誰に対しても明るい態度で人と接していくことができる人になりたいです。」

生徒の憧れの対象は、ごく身近な大人であった。まるで生徒が、「先生、私たちは素敵な大人がどんな大人なのかをちゃんと知っているよ。」と言っているように聞こえ、自分を鏡に映す。決して肩肘張るのではなく、コンプレックスもさりと身に纏い、「これが私。」と、生徒の前に笑顔で立つ自分を想像してみる。生徒の目に映る私、自分の目に映る私は、自分が良しとする私であり続けたい。生徒の発言から自問自答した時間であった。

掲 示 板

～おめでとうございます～

◇第18回社会科課題追究学習作品展

《最優秀賞》内海 沙彩（土岐津小4年） 作品『なぜ土岐市は、市民がこまるのに
ごみぶくろのねだんを上げたのだろう。』



◇第62回岐阜県児童生徒科学作品展

《入選》桐山 叶夢（駄知小1年） 宮地 利奈（土岐津小3年） 小嶋 美羽（土岐津小4年）
渡邊 徠夢（土岐津小4年） 佐々木 拓夫（泉西小5年） 塚本 和歌菜（肥田中1年）
岩本 実花（土岐津中2年） 山路 かな（土岐津中3年）

◇2018年岐阜県発明くふう展

《作品の部奨励賞》鈴木 健心（土岐津小3年） 柳生 泰杜（妻木小5年）
加納 慎太郎（下石小5年） 川本 拓翔（下石小6年）
《絵画の部奨励賞》春日井 しおん（泉中2年）

